

日本の40年間で(1975~2016年)のシギやチドリの数を調べたところ、干潟や湿地の面積が減ったことで、鳥たちの数も減っていることがわかります。

●シギやチドリの数の変化



高度経済成長期の開発計画のため、1980年代までに全国の約4割の干潟が埋め立てられました。

日本の干潟やシギ・チドリは減っているの？

ほかの国に行けば安全なの？

日本だけでなく、重要な中継地点である黄海(中国大陸と朝鮮半島の間の海)でも、開発はどんどん進んでいます。国境を越えて渡りをするシギやチドリの仲間にとって、中国や韓国など他のアジア地域でも危険は迫っています。



彼らを守るために中国では、今、鳥の種類や個体数を調べるモニタリング調査や、衛星追跡調査をしています。また、食べ物となる貝類の養殖を始めています。



衛星発信器を取りつけたダイゼン。



干潟ってどんなところ？

干潟を少しでも取り戻すために



ひとつの干潟・施設だけでは、渡り鳥を守れません。習志野市谷津干潟自然観察センターが拠点となって、以下の取組みを通して様々な人々と連携し、東京湾全体で力を合わせて渡り鳥を守ろうとしています。



▼ホンビノス貝から賢い利用を考えるイベント

シギ・チドリの旅

みなさんも身の周りの干潟に、ちょこちょこ走り回るシギやチドリの仲間たちを探しにいってみよう！



この折りはアジア湿地シンポジウム 2017のサイドイベントにおける発表をもとにバードライフ・インターナショナル東京とラムサールネットワーク日本が、習志野市谷津干潟自然観察センターの協力を得て作成しました。また、「公益信託 大成建設自然・歴史環境基金」の助成を受けて作成しました。デザイン・イラスト / いきものパレット

チドリ

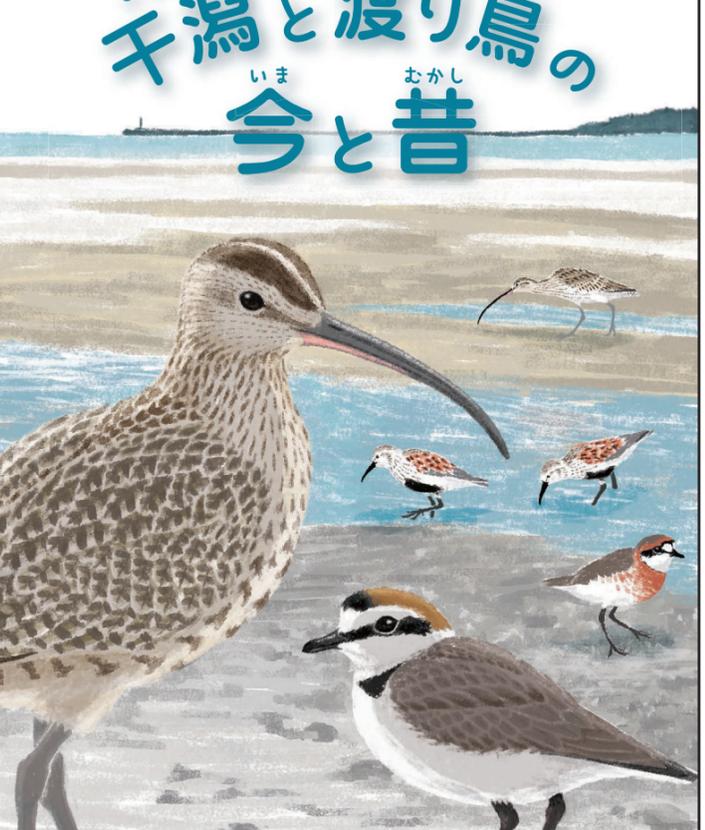
大きさ : 15~40cm
 <ちびし> : 短い
 目 : 大きい
 食べ物 : 干潟や湿地を走り、表面に隠れたコカイやカニ、昆虫の幼虫をとる。

シギ

大きさ : 15~65cm
 <ちびし> : いるいるなかなた(美しい短い、曲がっている) 反っている
 食べ物 : <ちびし>を使って泥をつつき、コカイやカニをとる。

シギ・チドリってどんな鳥？

干潟と渡り鳥の今と昔



Ramsar Network Japan BirdLife International